

[TOP page](#)[資料室](#)[イベント情報](#)[講師を探す](#)[Worker's 広場](#)[関連リンク](#)

## 資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [労働組合](#) | [教育カリキュラム](#) | [高野房太郎伝 \(1\)](#)
[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[組織活動](#)[組織運営と法律](#)[労働安全衛生](#)[経営対策活動](#)[教育・宣伝活動](#)[労働時間をめぐる諸問題](#)[教育活動](#)[選挙活動](#)[組合組織（公務員）](#)[教育カリキュラム](#)[▶ キーワード検索はこちら](#)

### 高野房太郎伝 (1)



日本の労働運動は、1897年の「労働組合期成会」によって興ったが、封建社会が残ったままの藩閥政府により弾圧され、発足間もなく解散させられてしまった。

しかしこのときの萌芽が日本における労働運動の草分けであったことは間違いない。

18世紀の後半から起こった産業革命は、イギリスを中心に、社会の仕組みを大きく変えた。

しかしながら日本は徳川時代の長い鎖国政策により、産業革命を「文明開化」として受け入れたのは、明治維新以降のことであった。

産業革命と新興資本主義の勃興で生まれた労働運動は、イギリスにおいて、すでに労働法の制定や十時間労働の法制化を実現させていたが、いまだ日本ではペリー艦隊の来航で国内が大混乱を来しているときであった。

1897年に結成された「労働組合期成会」は、アメリカ労働総同盟（AFL）のサミュエル・ゴンパースに指導を受けた高野房太郎らによって結成された。

高野房太郎は、「明治」が誕生したまさにその年、長崎で生まれた。

高野家はその後東京に引越すが、房太郎10歳の時に父親が急死、しかも1年後には家業としていた旅人宿を火事で失うという不幸に見舞われる。

房太郎は小学校を卒業すると横浜の叔父の家で住み込み店員として働きながら、商業学校で学んだ。

横浜商法学校では特に英語教育を重視していたというからここで房太郎は英語力を身につけたのであろう。

(つづく)

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

>>一覧へ戻る

[▶ サイトマップ](#) [▶ このサイトについて](#) [▶ 個人情報保護の取組みについて](#)

[▶ ページTOPへ](#)

[TOP page](#)

[資料室](#)

[イベント情報](#)

[講師を探す](#)

[Worker's広場](#)

[関連リンク](#)

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト  
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.